

せんだん

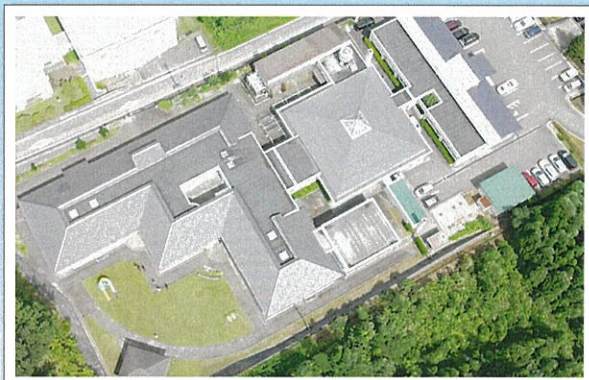


富山県立
砺波学園
砺波市福山1164

〈発行責任者〉
松本吉永

<http://www.pref.toyama.jp/branches/1250/toppage.htm>

創立60周年記念号



砺波学園創立60周年によせて



富山県厚生部長
有賀 玲子

砺波学園創立60周年にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本学園は、昭和37年、県西部における知的障害児福祉の拠点として、関係各位の熱い期待を受け開園いたしました。

以来、60年の長きにわたり、子どもたち一人ひとりの意思及び人格を尊重し、健全な育成に努めるとともに、地域で自立した生活ができるよう、それぞれのニーズや適性に合わせたきめ細かな支援を行うなど、障害児福祉の充実に大きな役割を果たしてきたところです。

新型コロナウイルスの影響により、感染防止に向けた緊張感が伴う厳しい状況が続くなかで、迎えた創立60周年の節目にあたり、歴代園長はじめ日夜のご尽力の支援に取り組まれてきた施設職員の皆様のご尽力を、開園以来、厚くご支援をいただいている砺波学校の教職員の方々など、関係各位のご理解、ご協力に対し、改めて心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

さて、近年、障害者を取り巻く環境は大きく変化しており、国においては、障害の有無に関わらず、すべての人々が地域、暮らし、生きがいと共に造り、高めあうことのできる「地域共生社会」の実現に向けた取組みなどが進められています。

県としても、本県の未来を描く新たな成長戦略を策定しており、その柱には、自分らしくいきいきと生きられること、主観的な幸福度を重視した真の幸せ「ウェルビーイング」の向上を目指しております。

今後とも、障害者一人ひとりが住み慣れた地域で、自立し、安心して暮らすことのできる幸せな富山県の実現を目指し、関係の皆様と「ワンチーム」となっており取り組んでまいります。

この度の創立60周年を契機として、砺波学園がますます皆様から信頼され、広く地域に開かれた障害児福祉の拠点として発展するよう努めてまいりますので、皆様方の一層のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、この記念誌の発行にご尽力いただきました関係の皆様にご感謝申し上げます。

これからの砺波学園を考える

〈創立60周年を迎えて〉

〈職員対談〉

「砺波学園のこれから」ということで、対談を行いたいと思います。みなさんのご意見をお願いします。



●先日、地域の方に公民館でのひまわりの種を植える行事に加えさせてもらい、交流が出来て良かったと思っ

●以前は地域との交流に力を入れてもいたが、今はコロナ禍で、なかなか交流が難しい。そういう行事に参加して、あー、砺波学園の子だなあと感じてもらったり、日頃の散歩で挨拶をしたり、児童もそういう経験が社会に出て役立つだろう。

●砺波学園のことを知っている方が少ない印象がある。砺波の方でも、どこにあるのか、どんな施設か知らない。地域の方ともっと交流があれば、砺波学園がこういう所、こういう子がいるんですよと知ってもらえる。山にあるので、電車、交通が不便で、働きたいと思う人も通いづらい面はある。

●児童がIT機器を使う機会がもつとあるとよい。
●時代的にいろんなIT機器を使っている。コロナ禍で、職員もIT機器に強くなったが、まだよく分かっていない面もある。どういうものが使われているか調べていくといいだろう。
●ゲーム依存などもあるが、そうならずどう付き合っていくかを学んでいく

●学園を出た時、自分の時間をどう過ごすかが課題。タブレット等の受動的な刺激だけでなく、何かやるか自分で考える、いろんな経験をさせることが大切。自分で考えられる子になってほしい。ゼロからは無理だから、職員と一緒に取り組んでいく。今は、折り紙や工作に夢中になっている児童も何人もいる。TVを見ているより生き生きしており、こういう姿を大切にしていかなければ。
●ITの使用についてはこの施設も悩むが、60年変わらないことは、夕方、「涼しいね、今から散歩に行こうか」と言えること。

●自然と触れ合うこと、その時によっては散歩したりと良い点がある。



●時代の流れは個別化、ユニット化であり、家庭に近い流れを作っていくなくてはならないが、集団指導の枠の中で、そのメリットを児童に合わせて生かしていくことはできないだろうか。

●相部屋が多いが、その中での交流も良い経験だろう。
●退園生が退園した後苦労している話も聞き、自分は何をやっていたのかと思うこともあったが、その後の活躍も聞き、自分達の仕事は無駄じゃなかったんだなと思っ

●福祉の世界も変化してきており、砺波学園は今以上に前へ進むべきだと思う。



〈職員座談会メンバー〉
松本園長、宮川次長、干場課長、齊藤班長、林班長、山田、宇於崎、坂本、高橋優、三井、澤田(司会)



学園の苦情解決及び事故対応の状況について

令和4年2月、第三者委員の方とオンラインでの懇談会を実施しました。事故状況と対応・再発防止について報告いたしました。また新たに児童の投書ボックス(ふれあいボックス)設置とその投書内容、毎月実施している学園の生活についてアンケート、希望者への心理担当者との面談を行っている取り組みについても報告し、貴重なご意見をいただきました。

事故	育成班	5件
	療育班	16件
	計	21件
苦情		0件

(令和3年6月~令和4年5月末)

ボランティアの皆さんとの対談

せんだん

ボランティアを始めた経緯はどういうものですか？

民生委員の女性達が集まって、砺波学園のために何かやってあげようというのがスタートでした

司会

どれくらい前からやっておられますか？

平成前の昭和からやっています。メンバーはほとんど替わっていますが、ボランティアグループは続いている。今ここで一番長い方は平成元年頃からのので、34年続けていることになりました。

司会

せんだんボランティアは具体的に何をやっていきますか？

最初は、各部屋やお風呂の掃除をやっていた。そのうち、衣類の直しやお尻拭き作りをするようになり、今に至っています

司会

特にコロナ禍で、雑巾やお尻拭きが大量に必要になっており、助かっています。

司会

児童と触れ合う機会はありませんか？

学園祭での食堂手伝いの時くらいです。元々、子ども達と触れ合うようなボランティアでなく、裏方の作業として関わっています。この一枚の雑巾でも児童の力になればと思う。

個人だと長く続けるのが難しかったかもしれない。会、グループとしてやってきたから、こ

うやってずっと続けられてきたのではないかと思います。

司会

砺波学園について思うことは？

・小中学校ともよく交流していたが、今はコロナ禍でそれも難しいのだろう。今後は、地域との交流をどんどん進めていってもらえればと思う。



詩吟・ポールペン

ボランティアを始めたきっかけは何ですか？

保健師として砺波学園で勤務していたが、退職後に、砺波学園職員から、詩吟を教えてほしいと言われて嬉しかった。詩吟は学生の頃に習い始めた。40代からは井波の詩吟会に入った。一度止めたこともあったが、再び始め、砺波学園で教えるようになった。詩吟の先生から、それなら人に教えられるようにならなければと言われ、取り組み、師範を取得することができた

司会

退職後に何かやりたいと思っていた。広報誌にボランティア募集の案内があり応募した。

司会

ボランティアをやっていてどうですか？

子どもたちはみんな素直。教室では伏せたり猫背になったりしているが、いざ声を掛けると「やろう」という姿勢があつて良かった。漢詩は難しいが、五・七・五の俳句を吟じた。特に自分たちで作った俳句を吟じる時は、楽しく一生懸命にやってくれていた。

司会

コロナ前に野呂君が「学園に麒麟が来ると嬉しいな」という句を作った。自分の生活に関係ないことであつても、関心を持って作っていることが分かった。詩吟は自己を発散させるにはとても良いと思う。大きい声を出すことも発散になっている。

司会

吟道大会は子どもたちの励みになっていったと思う。

司会

子どもたちは真面目で、言ったことを守ろうとしてくれる。子ども



によつては難しいこともあつたと
思うが、やろうと決めたことはや
っていた。

司会

学園の子どもたちは集中する
のが苦手な子が多いと思う。

司会

始めは5分、少しずつ時間を伸
ばしてみても30分間取り組めるよう
になった子もいた。

司会

休み明けでも字が崩れていない
時に、「休み中、僕練習してしまし
た。」と話す子もいた。

司会

じっくりとかかわってもらえ
ることがありがたい。自分たち支援
者は、マンツーマンで支援すること
が難しい。

司会

教養の広がり施設内だけで
は難しい。もつと社会に触れさせた
いと思つている。ボランティアさん
の協力は本当にありがたい。コロナ
で慎重になつているが、これからも
協力頂きたい。

技術を学ぶ機会にもなつてい
る。子どもたちには人とのかき合い
方を学んでほしいと思つている。挨拶
や言葉のやり取り、学ぶ意識はど
んな場面でも誰にとつても通ずる
ことだと思つた。資格云々よりも、子
どもたちにとっては、日常的に話し
ている私たちよりもボランティア
の先生たちとお話するのが新鮮。

学園として、ボランティアさん
ど協力者の方々との付き合い方や
やり方を考えていきたいと思つて
いる。例えば、平日に限らず土日の
余暇の広がり一つとして実施す
るのも良いと思つている。

司会

以前言われた、集中できる時間
があるということだけでも子ども
たちにとつてプラスになつている。
という言葉に救われた。

司会

教室を見学させていただいた
ことがあるが、普段の姿からは想像
できない程集中して驚いた。

司会

学園には様々なボランティア
さんに協力頂いている。ポールペン
習字の様な静的活動、詩吟の様な動

的活動、子ども
たちがいない時
に縫物や掃除を
してくださる方
など、ボラン
ティアさんとの
かわりを通して
、人に好意を
向けられるよう
になつてほしい
と思つている。



前田(詩吟教室)
貝淵(ポールペン習字)
干場課長(司会)

善意の窓 (敬称略)

◎寄贈

- ・澤田グループ
- ・窪田 敬子
- ・北陸ホームケアサービス
- ・公益社団法人 富山法人会
- ・ふじや寝具店
- ・梅檀山ヘルスボランティア
- ・富山県善意銀行
- ・貝淵 悦子
- ・砺波市更生保護女性会
- ・砺波市花と緑と文化の財団

◎ボランティア活動

庄東地区民生委員・児童委員協議会

(除草)

・せんだん(縫い物・除草)

・貝淵 悦子(ポールペン習字)

・前田由美子(詩吟)

※新型コロナウイルス感染症予防の為
ボランティア活動の受け入れを一時
停止等の制限をしていました。
※杉の子祭は、開催規模を縮小した為
ボランティアの受け入れを行いま
せんでした。

ボランティアの皆さんからのメッセージ

ニュークリスタル

代表 高田賢生

昭和50年頃、砺波電報電話局(元N T T 砺波支店)で働いていた音楽好きの素人が集まりバンド結成。

練習を積み重ねレパートリーも増えることにより何処かで披露したいという思いに駆られ発表の場を探していたところ、砺波学園の関係の方から声をかけていただき昭和52年から演奏会を開催することになりました。

当初は、夏祭りの余興で演奏していたかないつ頃からか、12月のクリスマス会、そして年末お楽しみ会と変わっていきましました。

年齢も全員もうじき70歳となり気力がある限り活動を続け、子ども達に楽しい笑顔のあふれる音楽を届けていきたいと思ひます。

二年続けての年末お楽しみ会の中止。今年こそコロナが終息しお楽しみ会でみんなと一緒に楽しく過ごせることを祈ります。



砺波工業高校吹奏楽部

顧問 島田教諭

貴学園の創立60周年、誠にめでたくございます。本校吹奏楽部は、毎年8月に訪問演奏をさせていただきます。永きにわたり互いに楽しい思い出を作つてまいりました。

訪問演奏会では園生さんからリクエストのあった曲を演奏したり、寸劇やビーチバレーなどのレクリエーションをしたり、おやつ交流会などを行つたりしました。演奏をしている時に園生さんが曲に合わせて一緒に踊つてくれた姿が印象に残っています。私たちの演奏を聴いて楽しんでくね、私達も嬉しい気持ちになりました。

さて、私たち砺波工業高校も今年で創立60周年になりました。これからも訪問演奏会を通して、未永く、貴学園の皆さんと交流を続けていくことを願っています。



株式会社 旭屋

代表取締役 堀 彰

1992年4月8日午後1時30分頃に先天性脳動脈奇形が爆発する。射水市大島町でクレインオペレーターとして勤務中脳出血で緊急搬送。富山大学附属病院にて14時間間の開頭手術。生死をさまよいまひで身体障害者となる。地獄に突き落とされた気持ちでいた。

5月10日頃富山リハビリテーション病院に転院し約3か月のリハビリスタート。なかなか動かかない右半身、絶望感にいた自分がおいた。1か月位たった頃、バスターミナルのベンチに腰掛けていたら無邪気な子供たちに遭遇。なんと障害をもつた子供たち。体いっばいに手や足を動かさず声にならない声でしゃべる。目から鱗が落ちるとはこのことでした。高志学園の子供たちで変わった。その時から自分の中で何か向きに取り組めるようになった。3か月後、杖無しで歩けるようになった。退院。この時自分は29歳。

31歳でラーメン店をオープン、なかなか上手いかないな経営。約8か月後、神が下りる。経営難は、(自分の心にあり)と悟る。そこから右肩上がりで経営が軌道に乗る。

1年後、リハビリを前向きにしてくれた子供たちへのラーメンボランティアがスタート。数年後、砺波学園のボランティアへ行く。無邪気な光景はあの時と一緒に、明るく元気いっばいな子供たちに勇気と元気をもらい、旭屋を支えてくれた。30年、本当にありがとうございました。御年59歳。自身障害者であることが感謝です。



OB・OGの皆さんからのメッセージ

1. 掃除、倉庫の片付、側溝掃除、草むしり、手元仕事、資材の片付などです。
2. 行事での思い出は、バスケットボール観戦で、選手がかっこよかったこと。杉の子祭でダンスを踊れたこと。夏季特別体験でラウンドワンでのスポチャ、能登島水族館でのイルカショー。イオンでの買い物ができること。学園でのバーベキューです。
3. 運動や遊びの思い出は、ホールでバスケの3ポイントをうてうれしかったこと。ミュージックケアでダンスを踊って楽しかったこと。中庭での野球です。
4. 余暇にみんなでRYUSEIを踊ったこと。おやつにフルーツポンチを作ったこと、学園で会長をやれたこと、ホールでバトミントンをやれておもしろかったです。
5. 集団行動ができるようになったこと、自分のやりたいことを言えるようになったこと、はじめて機械を動かして作業できるようになったことです。
6. 創立60周年おめでとうございます。これからも明るく仲よく、元気よく、いろんなことに挑戦してください。



1. 今は、オアシスで仕事をしています。今年の4月で3年になりました。検品やシール貼りの作業をしています。
2. 夏のバス外出で、友達とかほくや牧歌の里に行ったのが楽しかったです。
3. 先生とバトミントンをしたり、友達とテレビを見て楽しかったです。先生、友達で鬼ごっこをしたこと、菜の花マラソンで走ったこと。
4. 先生と話をできてうれしかったです。
5. 小さな子に優しく教えてあげることができたことです。
6. 60周年おめでとうございます。勉強や運動をがんばってください。みんな気をつけて、がんばってください。



1. 今は何をしていますか？
2. 砺波学園の思い出は何ですか？
3. 砺波学園での運動や遊びはどのようにでしたか？
4. 他に思い出はありますか？
5. 自分が成長したなあとと思うことはありますか？
6. メッセージをお願いします。

1. 農場では、ほうれんそうの収穫、草むしりなどの仕事をしています。また月曜日と水曜日は環境整備に行つてトマトの収穫や枯れたトマトの撤去などの仕事をしています。
2. 黒部学園さんとのビーチバレーの交流で黒部の皆さんと一緒にビーチバレーができたこと、またサンダーバースの野球をみんなと一緒に観戦できたことが学園での思い出です。
3. 中庭で長谷川先生と野球をしたことやバトミントンで遊んだことが思い出に残っています。また菜の花マラソンに毎年出場して学園のみんなと大会に出場できてうれしかったです。
4. いろいろとスポーツをしたことやみんなと天狗山に散歩に出かけたことが楽しかったです。二か月に一回床屋に行けたことが良かったです。
5. 学校から出していたいただいた漢字検定をして分からない漢字も頭の中に記憶したことで少しずつ覚えることができました。
6. このたびは、砺波学園創立60周年おめでとうございます。これまでの学園で自分が学園で過ごせたことが私は誇りに思います。



砺波学園OB・OGの保護者の皆さんからのメッセージ

砺波学園創立60周年おめでとうございます。うちの子は小学1年生から高校卒業して、成人になる直前まで、14年近く砺波学園にお世話になったので、学園の歴史を1/4近くを共に歩んだ事になり、とても感慨深いものがあります。長居した分、思い出も山ほど有りますが、ここでは書き切れません。私は保護者会での会合、親子バスハイイク、親子バーベキュー、杉の子祭情報交換会(保護者OB)といった、行事に関しての思い出が多いですが、子供にしてみれば、毎日楽しくて、安全で、優しく包まれて、学園での生活自体が良い思い出に成っていると思います。初めて学園に子供を預け一人帰宅しようとしたとき、置いて行かれると察したのか、普段泣く事のない子供が泣いたのに、ガラス越しに追い駆けようとしながら大泣きされ、私は辛くて辛くてなりませんでした。あの時の不安そうで、悲しそうに泣いていた時の顔は今でも時々思い出します。子供も私も、一緒に暮らせない事で不安と寂しさは有ったけれども、時が経つにつれて、二人共その不安は掃き払っていった。入園する前はただ子供を一生かすだけの生活で、とても育てるといふ余裕が無く、本当に疲弊した毎日でしたが、学園に入園させていたいただいてからは、子供の厚い生活支援で守られ、可愛がってもらって、安全に健康に育てて頂きました。その安心感と共に私は平穏な日常を送れて、どんなに生活と心が豊かになったのだろうか。子供にとっては(ある意味で私にとっても)、間違いない生涯で一番幸せな時代が学園での生活でした。その時代にうちの子に携わってくださった学園の職員の皆様方(退職や異動された全ての方々も含めて)には、心より感謝いたします。本当にありがとうございます。コロナ禍の大変な時期で、気遣いや苦勞が多い日常だと思いましたが、この先も、沢山の子供達が幸せな時代を過ごせるよう、健康でご活躍ください。

息子は中学部に入学する年から五年間、砺波学園に入所しておりました。まん丸な顔のぼつちやり体型で他の子より一回り大きい息子。痲癩を起した時の力は母だけでは抑えられない程強くなっていました。入所してしばらくの間は、今どうしているのかな、暴れてないかな、と考えてばかりいました。初めての学校での参観日で登校時間に窓からこっそり見てみると、満面の笑顔で学園の玄関から出てきて歩く姿になんだか拍子抜けした事を思い出します。園では色々な行事があり、楽しい思い出がたくさんあります。特に覚えているのが、年に一度開催される「杉の子祭」の事です。初めての杉の子祭では、学園の中に飲食コーナーやゲームコーナーなどがたくさん並び、テーマパークに行った時のように息子の目がまん丸になっていました。大好きな焼きそばやカレーを食べ、輪投げなどのゲームを楽しみ、嬉しい気持ちのまま遊び回りました。園内を走り回り他の方に迷惑をかけているのではないかとハラハラしました。地域住民の方々が多く来られていましたが、皆さまに優しく見守っていただきました。杉の子祭で園内にいる間、あまり面識のない職員の方からも息子が話しかけてもらっていました。ここでは多くの方に見守られて生活しているのだなと感じました。入所したばかりの頃によく暴れていた息子も、退所する頃には随分落ち着いた物事を理解し、我慢する力がついていると思います。退園時にはいただいたアルバムには学園での日常生活の息子の担当の職員の方からの愛情溢れるコメントがいっぱいでした。現在コロナ禍で息子に会えない日が続き、どうしようもなく切ない気持ちで過ごしておりますが、笑顔いっぱい息子のアルバムは我が家の宝物となつて心を癒してくれています。

砺波学園旧職員の皆さんからのメッセージ

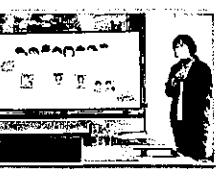
「なつかしい思い出」 斎藤真知子
私は昭和53年に学園に来ました。花壇コンクール県大会で金賞を受けた年です。一人の男子児童が毎朝6時になると、「玄関開けてください。」と言つて水やりに行くのです。眠い目もあるだろうに、と感心したのを覚えています。その子は、中学卒業して、自宅近くの道路整備会社に入社して、自衛隊に入社して、その後、学園に車で訪ねてきました。高等部に行く前は、中学卒業後は訓練部(ごたごた)で、地域の役員として暮らせるようにと、個々の応じて、様々な作業や社会生活に必要な体験をしていました。作業棟では、農場、カレンダー制作、職場実習(作業所への通所や実習)、理髪等、一つ一つが思い出されます。

創立六十周年によせて」 和田 良美
このたび、学園創立六十周年を迎えられましたこと、誠にありがとうございます。かつて職員として勤務させて頂いたことを、とてもうれしく思っています。振り返れば、私が初めて学園で勤務したのは、平成元年四月の現園舎が移転新築された時です。以降転入を繰り返して、退職するまで約二十年、勤務させて頂いたと思います。

一般若小学校、中学校の施設内特殊学級が閉級となり、養護学校が義務校となり、高岡養護学校砺波学園分校、そしてとなみ養護学校砺波学園分校、現在とはなみ東支援学校となみいろいろと変わり、生活の流れや内容が変わっていききました。限られた時間の間に、生活能力の向上とどうすればよいか悩んだこともありました。

初めて担当したかつこう居室の四名の小中学生は賑やかで元気な男の子たちでした。中庭で自転車に乗ったり、ボール遊びをしたりいつもパワフルでした。転入時は、前職場が未満児保育所だったこともあり、喋り言葉が幼稚語になってしまひ、慣れるまでとても苦労したことを覚えています。また当時は、余暇時間にみんなで裏山を散歩することも多く、近くの山道をたくさん歩きました。初めて山に咲く草花を見て、可憐な姿に魅了されました。その頃は、山登りが好きな職員が多く、私も誘われて、休日にも内外のたき草の花を育てることと山歩きは、自分の趣味として今も続いています。

発達課題と様々な背景を抱えた児童、家庭との連携もなかなかうまく行かず試行錯誤で、人懐っこい児童に元氣やパワーをもらい、その度にやりがいを感じながら仕事ができました。



H25



大型バランスボールとスヌーズレンでリラックス

H24



R3



H26



菜の花マラソンにて

R2



2020年度カレンダー テーマ「わがはなし」

「せんだん」 表紙で振り返る10年

2012年(平成24年)の創立
50周年には記念式典を開催
しました。その時から現在までの
10年間を表紙に掲載された
写真で振り返ります。

H27



七夕の集い

R1



H29



避難訓練の様子



H28

高等部生登校バス乗車



H30

南砺吟道大会

詩吟教室の様子

高等部生登校バス乗車

編集後記
この10年で、学園にもいろいろなる変化
がありました。今から10年後の創立70周
年記念誌編集者も、今後の福祉の制度や
福祉の考え方の変化もあり、「変わった
あ」と思っているのでしょうか。「しか
し、昔ながらの砺波学園の良さは変わら
ないなあ」と思っているのではない
かと想像しています。
(沼田記)

年	行事予定
4月	1日 新任式
5月	27日 子ども会役員選挙
7月	6日 七夕のつどい
7月	28日 夏季特別体験(育成班)
8月	1日 魚津水族館・ミラージュランド 砺波工業高校吹奏楽部演奏会 (中止)
8月	2日 黒部学園交流ビーチバレー (中止)
8月	3日 夏季特別体験(療育班)
8月	28日 魚津水族館・ミラージュランド 歯磨き教室
10月	8日 ミニ杉の子祭
10月	29日 不審者発生対応訓練
12月	23日 年末お楽しみ会
2月	1日 節分の集い
2月	1日 ひなまつり
3月	1日 春のお楽しみ会
3月	31日 退任・離任式

※定期的に、ミュージックケア、発明クラ
ブ、スポーツ教室、エアロビ教室を実施
しています。
※新型コロナウイルス感染症の情勢により、
予定した行事が延期・中止となることも
あると思いますが、行事を楽しみにして
いる子ども達に少しでも潤いのある生活
ができるよう取り組んでいきます。